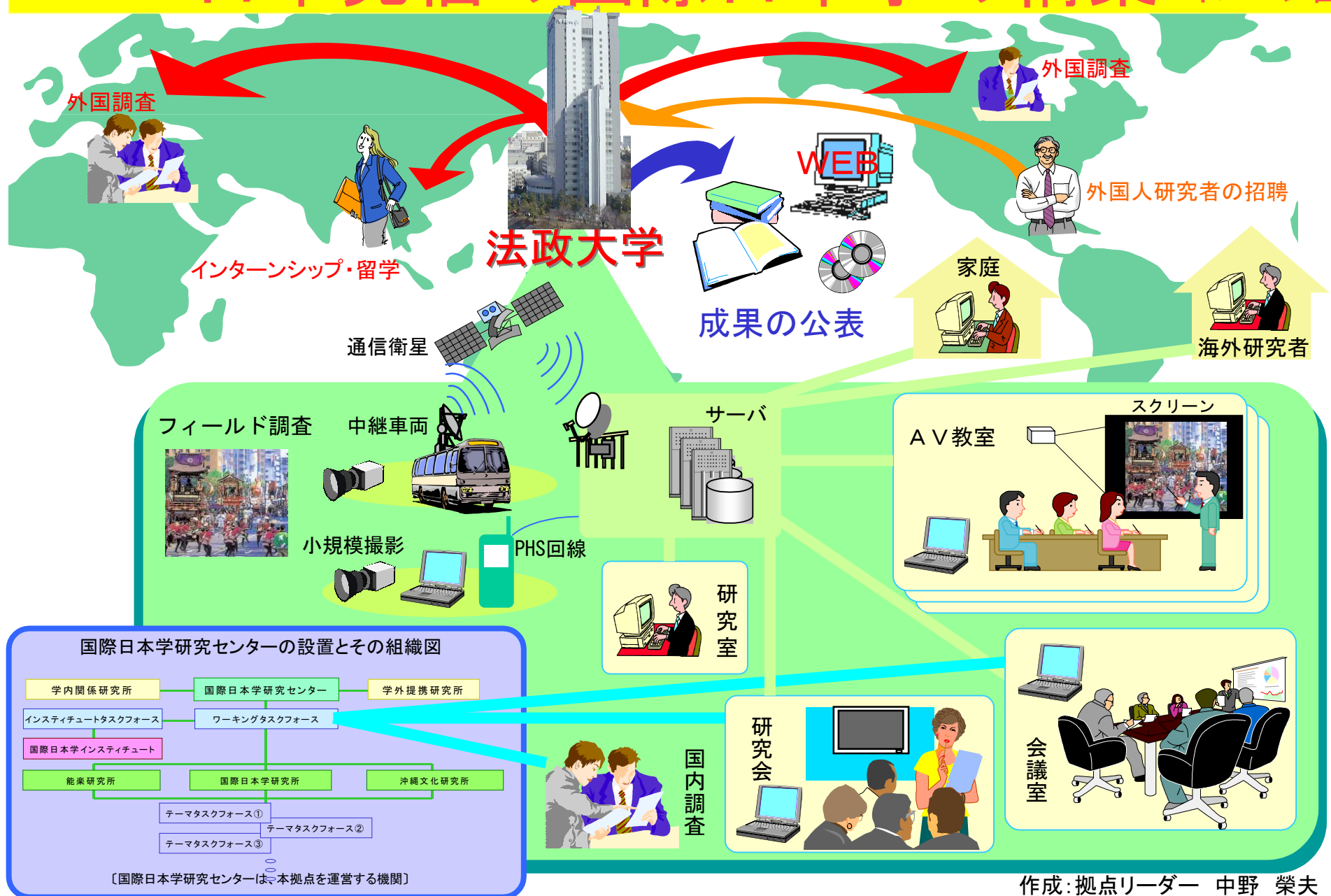


大 学 名	法政大学	学 問 分 野	人文科学
専 攻 等 名	人文科学研究科日本史学専攻・日本文学専攻 社会科学研究所政治学専攻、国際日本学研究所、野上記念能楽研究所、 沖縄文化研究所		
拠点のプログラム名称	日本発信の国際日本学の構築		
拠点リーダー氏名	中野 榮夫	所属部局・職	人文科学研究科日本史学専攻・教授
プログラムの概要	<p>「異文化研究としての日本学」、「日本文化の国際性」という基本コンセプトのもと、「日本」を国際的視野から体系的に見直すことによって、日本文化を通じての国際社会への貢献など、今後の国際社会における日本・日本人のあり方を再検討する。また、21世紀の国際社会の中で真に通用する国際的かつ創造的な人材育成をも目的とする。</p>		
拠点形成の目的・必要性	<p>本拠点の運営機関として国際日本学研究センターを置く。本拠点形成の目的は、「日本発信の国際日本学」の構築である。それは、「日本」を国際的視野から体系的に見直すことによって、日本文化を通じての国際社会への貢献など、今後の国際社会における日本・日本人のあり方を再検討し、21世紀の国際社会の中で真に通用する国際的かつ創造的な人材育成をも目的とする。</p> <p>本拠点は、「異文化研究としての日本学」、「日本文化の国際性」という基本コンセプトのもと、「異文化」、「非英語圏」、「ネットワーク」、「リアルタイム」、「フィールドワーク」をキーワードとしつつ、IT技術を最大限活用した独自の資料収集、ネットワークを通じた遠隔授業等を展開する。また、広く海外の研究機関・研究者との連携を視野に入れている。</p> <p>本拠点構想は、「日本学」そのものを「異文化研究としての日本学」というはっきりとした方法論のもとに、異文化との交流のもとで形成された日本文化の多様性・重層性に着目しつつ、それを多角的・体系的に研究しようとする点で、不確定な方法論のもとでの細分化された他機関での日本学研究とは異なる。「日本発信の国際日本学」構築を謳う本構想は、今日においても見られる世界の日本に対する誤解と曲解を是正し、正しい日本認識を提示することで、日本ならびに日本人を真に国際化させることに資するだけでなく、ネットワークを通じてリアルタイムに研究成果を世界の研究機関・研究者に発信することで、国際的な日本学の発展にも大いに貢献しうる。</p>		
研究拠点形成実施計画	<p>本構想における「国際日本学」研究の基本的姿勢は、「異文化研究としての日本学」の構築と、「日本文化の国際性」の解明とである。</p> <p>「異文化研究としての日本学」とは、今まで「同文化」として研究されてきたものを、あえて「異化」する視点を導入することによって、新たな「国際日本学」を構築する。すなわち、日本に関する諸問題を、たえず「異文化」と見て対象化し、研究考察することである。それが、国際社会に通用する新しい「国際日本学」の樹立につながると考えている。また、「日本文化」を純粹培養された単一のものとするのではなく、「日本の中の異文化」という視点から、もう一度、蝦夷・アイヌ、琉球・沖縄の問題を捉えなおしたいと考える。</p> <p>「日本文化の国際性」とは、視点の国際性（自文化を異化する国際的視点の導入）、文化の国際性（異文化交流のもとで形成された日本文化の多様性・重層性に着目）、研究組織の国際性（国際チームによる現地調査を含む共同研究）、教育の国際性（研究成果を教育に活かし、国際社会で通用する日本学研究者・教育者など創造的な国際人の育成）を四本柱とする。この基本姿勢のもとに、以下の8タスクフォースを設け、5年間（1年次は準備）の年次計画にもとづいて、研究を推進する。</p> <p>テーマタスクフォース：日本研究事情 テーマタスクフォース：西欧（特に、オランダ・フランス・ドイツ・ロシア）と日本 テーマタスクフォース：アジアの中の日本 テーマタスクフォース：蝦夷・アイヌの文化と歴史 テーマタスクフォース：世界の中の能楽 テーマタスクフォース：東アジアの中の沖縄 インスティテュートタスクフォース：国際日本学インスティテュートの運営 ワーキングタスクフォース：成果の情報化と活用、国際日本学研究センターの運営</p>		
教育実施画	<p>本拠点では、教育体制として「国際日本学インスティテュート」を準備している。これは、人文科学研究科の日本文学・日本史学・地理学専攻、日本学関連領域を研究する社会科学研究所の政治学・社会学専攻をベースとして、日本学関連共通プログラムを開設し、日本学研究・教育を組織的に進めることを目指した学際的な教育組織である。このプログラムの特色は、次の三点にある。世界的レベルの研究者を迎え、世界的レベルの教育を可能とすること、外国からの留学生を積極的に受け入れるべく、魅力あるシステム・カリキュラムを開設すること、学生が外国に出て行く機会としてインターンシップ制を導入すること。この「国際日本学インスティテュート」は、来年度修士課程に開設し、その翌年度に博士後期課程にも開設する計画である。以上のようなプログラムのもとに展開すれば、教員みずからの研究水準を高めるとともに、次代を担う研究者養成、すなわち後継者養成をはかる拠点となりうる。また、外国人留学生の受け入れという点でも、国際社会に貢献できる。</p>		

法政大学 日本発信の国際日本学の構築 イメージ図



作成: 拠点リーダー 中野 榮夫